

西日本豪雨災害 被災地支援ボランティア活動録（平成 30 年 8 月 18 日～19 日）

朝 6 時奈良、三宅町を出発。奈良から 15 名、和歌山から 1 名、東京から 1 名の体制で現地に向かう



11 時 真備公民館に到着

公民館の壁には濁流の跡が残り、建物の外側の壁で計測すると 2.5 ㍍に達していた。

公民館の床は全て剥がされ乾燥させていた
基礎はコンクリー打ちしているので乾燥は早いが家屋全体が水没して多いので今後、どれ程使えるのか誰も解らない

同じ真備町豪雨でも川上では川の氾濫は無く通常の生活。

此处から数分先は堤防決壊(小田川)で家屋、田畑は壊滅状態

ビデオ画像が添付できず残念！

見ているだけで涙が出てきそうなほどです

ボラ活動に向かう途中の家。廻りは稲作農地、泥水で農地が干からびてしまっている



家の一階部分は泥水で壊滅状態。家を空けて乾燥させている

全ての道は泥水が運んだ砂・泥が乾燥して「白っぴい」「空気も何処となくイガラッポイ」



田んぼの中の住宅地。川崎鉄工の人達が多く住んでいる
泥流が迫り、水かさがどんどん増えて逃げようがなかった。
みんな2階に避難して救助を待った

家の保険も火災保険はかけているが「水害保険」までは
かけておらず、市からの補助金で修復しても 自己負担
は相当な額となる。

どこもかしこも、水没して家はあれど、人影が見えない。
農地は何時になれば回復するのか？



川向こうの住宅街も軒並み、濁流にのみ込まれる

家はシッカリ建っているが、濁流がさらった1階部分
はどの家も風を通して乾燥させている



高架線の下は災害から出された被災家財類の処分場所

高架線の向う側の住宅街も全て1階部分は乾燥させる
為開けっ放し。

家はあれども人影見えず
ゴーストタウンの様な感じ



辻田団地の被災者宅で作業開始。
築後40数年のお宅での家具出し作業を実施した。

家主の母親の家だが、本人は高齢者施設に居たので洪水の時は空き家同様。
和洋折衷の立派な居宅も2.5畳床から水没した為、家財道具一式の持ち出しは大変な作業だった。
床がボロボロで抜けてしまい危険。
濡れた布団の重い事。

持ち出した家財モノを外に出し、ボラ活動のグループが搬出してくれた。

ご両親や兄弟が集まった家も、思い出の残るモノも水没して水を含み、ボロボロの状態。
思い出も全て濁流が奪い去ってしまった。



2日目も同じお宅での作業の後、この近くの違う家で作業を実施。女性二人が思い出の品物を捨てるモノ、残すモノの分別作業を行う。しかし家の中はグチャグチャ。その中から思い出のビデオテープやデッキ、アルバムやノート類、子どものぬいぐるみ。子どもの絵本。水没して使いようがないが捨てるに捨てられず。

報告者：中嶋一樹防災士

